

インフラ・イノベーション

～強くて豊かな国を作る日本再生プロジェクト～ 藤井 聡 育鵬社

平成は実に暗い時代だったインフラ投資を削減し続け今やピーク時の半分以下
筆者は日本各地を取材デフレは飛躍的な発展をもたらすインフラ投資が放置されて
いる事をくつきりと理解した、子々孫々の為に我々は怠っては駄目です！

東京や大阪の繁栄は治水の為にインフラを作り変えて初めて可能となった歴史的事実、今日においても北陸新幹線開通以来金沢と富山、九州新幹線開通で鹿児島と熊本も大いに活気づき、大規模な港湾が整備された鹿児島湾周辺は大きな民間投資で臨海工業地帯を形成している。

平成8年を起点100にし主要各国の**インフラ投資額**はカナダ327、英292、韓247米192、仏165、伊133、独106、日本47、その結果はわが国だけ名目GDP低下
その他の国は2～3倍増に、世界シェアでは日本は2割近くから5%台迄凋落。
福島・首都圏・日本にとって重大な意味を持つ**小名浜港**～政府により東日本唯一
“**国際バルク戦略港湾**”石炭船大型化に対応し海上輸送コスト4割程度を削減。
近代文明を支える下水道インフラはインフラ資産全体786兆円の内85兆円、フ
ロー18兆円の内1割。下水資源インベーション“下水天然ガス”エネルギーで
火力発電は全国80ヶ所迄拡大、下水から“**水素**”を作りFCVを普及・電気自動
車に変わりトヨタ、本田が開発水素イノベーションは我国にとって極めて重大。
新幹線は都市を形成させる大河である大都市に成長する為の必須条件、現在の
指定都市に格上げの新潟、福岡、北九州、静岡、浜松、岡山は15位圏外だった
巨大地震直後でも活動し続ける強靱な六本木ヒルズ～電力と熱はその地下設置
されたエネルギーセンターから供給、東日本大震災でも中厚ガス管は損傷なし。
道の駅による地方創生イノベーション～4百万人の買い物客を集める道の駅：富
士川楽座はアミューズメント施設で市場・レストランだけでなくギャラリーや
プラネタリウム劇場も雇用200人以上と地域を活性化、官民連携が生み出した。
地方再生の街路イノベーション～**クルマ車線を削って賑わう京都四条通り**。

食産業のインフラ・イノベーションが日本を救う～食料自給率向上は国家安全
保障の為に必須！農水産物内需に対する国内供給の**自給率は41%強**に過ぎない、
世界の常識では農業は半政府事業、スイスでは6割以上農業予算を政府支出だ！
食料自給率向上に向けた総合戦略①コメ消費の増強②野菜消費量の増強③食べ
残しの低減(55百万トン輸入し乍ら三分の一も廃棄)④コメ粉の利・活用促進。
貿易コストの日本経済への巨大なインパクト～日本経済の貿易依存度は約25%
140兆円と巨大でその大半は船舶で運ばれ、欧米の基幹航路が三分の一迄激減、
コンテナ船の大型化には水深が浅く我が国は金がないと大型化を進めなかった。
本書紹介の数々アイデアが“**明るく展開する令和日本**”の契機にならん事を！